

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑬

象頭山(ぞうずさん)金 から人々のあつい信仰を集
 毘羅大権現と四国八十八カ めてきた。

所を描いた江戸時代後期の 当時、金毘羅参詣とあわ
 案内絵図。木版色刷り。「金 せて四国遍路を行う旅人も
 毘羅小坂美玉堂」が刊行。 多く、こうした絵図が土産

金毘羅大権現(現在の金 として買い求められたもの
 刀比羅宮)は航海の安全や と考えられる。

豊漁、五穀豊穡(ほつじょ 絵図を見ると、鮮やかな
 う)、商売繁盛、病氣平癒 青色の海に囲まれた四国の
 などに御利益があり、古く 形は大きくデフォルメされ、

瀬戸内海を渡って四国に上
 陸する旅人の目線を意識し
 ているかのように、南が上
 北が下の構図となっている。

中央には象頭山金毘羅權
 現が位置し、それを取り巻
 くように四国八十八カ所と
 番外霊場、それらを結ぶ巡
 拝道が描かれている。また、
 札所間の距離、城下、名所
 旧跡、港、川、国境、航路
 なども細かく記され、遠く
 は高野山、大坂、豊後の佐
 賀関、安芸の宮島なども描
 き込まれ、タイトルに「寺

かりの札所や番外霊場が細
 かく記載されている点であ
 る。「足よはき人は此印七
 リ十ヶ所をめぐれば四国順
 拝にじゅんずといふ」と記

江戸後期巡礼の案内図

社名勝」とあるように、物
 見遊山の雰囲気満ちて
 いる。

神仏習合の江戸時代にお
 ける札所の名前は現在と異
 なり、例えば伊予では第41
 番は「いなり」(龍光寺)、
 第57番「八まんぐう」(栄
 福寺)と表記されている。
 注目したいのは、弘法大
 師生誕の地善通寺をはじめ
 金毘羅の周辺にある大師ゆ

の記載があり、別の場所に
 女性用の参拝所が設けられ
 ていたことが確認できる。

本絵図からは、江戸時代
 後期の四国における金毘羅
 参詣を中心とした四国遍路
 と各地域の小規模巡礼や女
 人札所など、多様な四国巡
 礼の姿を読み取ることがで
 きる。

(専門学芸員・今村賢司)



番八十八勝名社寺國四道詣桑山頭象



金毘羅参詣と四国遍路を
 描いた絵図(縦35㌢、横47
 ・6㌢)

県歴史文化博物館蔵

本図は県歴史文化博物館
 ホームページ「絵図・絵巻
 デジタルアーカイブ」で画
 像を公開している。

〈随時掲載します〉